

英語教育と文学的教材 [7] †

— 英語教科書分析の試み —

幡山 秀明*

宇都宮大学教育学部*

大学生は中学・高校と英語の教科書を使用してきた。その中でどのような話が記憶に残っているだろうか。どの教科書を使い、どのような教え方がなされたのか覚えているだろうか。語学教育の場合、主要な目的は媒体としての言語を身に付けることであるが、無味乾燥な模倣や繰り返しだけが行われるのではない。中学では歌やゲームを活用し、会話中心の話す練習が行われている。高校は受験中心になりがちであるが、それでも忘れない内容がある。アンケートの結果、記憶に残る内容は、多い順にポピュラー・ソング、自然と環境問題、人種問題、童話、戦争の問題、障害を乗り越える不屈の話、偉人伝、世界遺産であった。

キーワード： 英語教育、教材開発、学習指導、教授スキル、指導要領

1. はじめに

2007年8月27日のYOMIURI ONLINEによると、「今年度内に改定を予定している学習指導要領について・・・これまで『英語』『リーディング』などに分かれていた高校英語を『コミュニケーション英語』（仮称）として統合する案を中央教育審議会外国語専門部会に提示した」とのことで、その「『コミュニケーション英語』では、社会や理科などで学ぶ内容を英語で学んだり、日本の伝統文化を英語で紹介する学習をしたりする」と伝えている。「国際化が進み、実践的なコミュニケーション能力の重要性が高まるなか、『聞く』『話す』『読む』『書く』の4技能をバランスよく学んだほうが良いとの意見が現場などから相次いでいた」そうである。

現在の高校英語は、総合的な「英語 I, II」に加えて「オーラル・コミュニケーション」、「リーディング」、そして「ライティング」がある。それらを一つに整理統合するわけで、後述するが、現場の教員や学生にとっても納得のいく方策であると思われる。

他方、同時期に中央教育審議会の小学校部会では、小学校の授業時間について主要教科の時間を全体として10%増やすこと、総合学習の時間を週3回から2回に減らしてその代わりに5年生以上の高学年で

は英語の授業時間に充てることが合意された。これは、その前年3月に中教審外国語専門部会による小学校高学年における英語必修化への提言に対応しており、その必修化が実現することになる。中学校においてもやはりゆとり教育が見直され、英語は1～3年で授業時間数が増えるとのことである。

この「英語教育と文学的教材」シリーズで以前既に確認したように、平成元年に高等学校学習指導要領改定があり、そして、平成6年から学年進行に伴う改定実施がなされ、さらにまた11年度再改定に従った指導が平成15年度より年次進行して、この新課程に基づく教育を受けた高校生たちが平成18年4月から大学の新入生となり、今年度の大学3年生の大半を占める。これまで、国際社会の中で生きるために必要な資質を養うためにコミュニケーション能力を育成することの重要性が強調され、さらに、聞く、話すだけでなく、読み書きを含めたトータルな英語力の向上が目指されてきた。そして、今回の改定を迎えようとしている。

2008年3月25日には高校高学年向けの次年度用教科書の検定結果が公表された。三省堂の「リーディング」でも脱ゆとり教育を反映して、新出単語が2割増しの1,155語に、扱う総単語数が約2,200から約2,500に増加する。また、総合的教科書として最もシェアの高いCROWN I, IIの平成20年度改訂版では、3分の1程度内容が差し替えられた。その際の「改訂のポイント」として提示された項目の中

† Hideaki HATAYAMA* : English Education & Literature as Teaching Materials [7].

* Faculty of Education, Utsunomiya University

で特に次の2点(4と5.)が興味深い。

4. コミュニケーション活動を段階的に

集中的にコミュニケーション活動を行う Activity Workshop で、楽しみながら会話特有の表現を学び、その表現を使って意思疎通をする練習をします。

5. リスニングの集中訓練

Activity Workshop 最終ページではリスニングの、集中訓練をします。

各課ごとにテーマを絞り、センター試験リスニング問題の形式を踏襲した Listening up! で、段階的に聞く力を養います。

従来の“Pre Communication, Real Communication, Listening”が“Listening up!”となる“Activity Workshop”の改変の主眼は、やはりセンター試験リスニング問題対策にあると思われる。内容に関しても、ひとつのテーマを「多角的に扱い」、既習事項は「スパイラル学習」で反復的に定着が図られることが強調されている。今後さらに「コミュニケーション英語」の教科書作成に向けてこうした過度期的な修正が行われていくであろう。

2. 「英語教科書についてのアンケート」

(1) 当『教育実践センター紀要』第31号の「文学を授業で扱うことの意義と可能性(下)」において、福田勉教諭が宇都宮女子高で実施したアンケート結果が示されている。それによると、まず、「英語Iの教科書(CROWN I)でストーリーの内容に特に興味を持ったレッスンのうち上位3つ」の人数は、

- ① Lesson 8 Good Ol' Charlie Brown (104)
- ② Reading 2 HARRY POTTER and the Philosopher's Stone (70)
- ③ Reading 1 When Thoughts Froze in the Air (52)

で、「すべて文学および文学的作品」となった。また、「教科書の中の読み物として扱ってほしいジャンル」としては、「① 小説(80) ② 新聞(22) ③ 歴史(21)」が選ばれている。さらに、「一番好きなジャンル」という質問に対しては、「① 小説

または文学的作品(101) ② 漫画(1) ③ 歴史(1) ④ 新聞(1)」という回答があった。

「文学作品を英語で読んでみたいと思うか」という問いには、「・はい(109) ・いいえ(30)」という結果が出た。これは、単語や熟語を覚え、語法文法を学び、日常会話を習得し、専門情報を受信発信したりするだけでは満足し得ない学生の一面を反映していると言える。しかし、アンケートの対象が県内屈指の進学校の、しかも女子生徒であるということらを考慮する必要がある。さらに、CROWN I の“Good Ol' Charlie Brown,” “HARRY POTTER and the Philosopher's Stone,” “When Thoughts Froze in the Air”は、内容的に「漫画」、「ファンタジー」、「寓話」であり、果たしてどこまで文学的と言えるかは疑問である。語学学習が勿論主要な目的であり、多くは望めないにしろ、例えば、新訳で売り上げを伸ばし話題となった『カラマーゾフの兄弟』の一部でも紹介できないのだろうか。異文化理解のための文章は多いが、ロシアや中国についてはどの教科書でもほとんど取り上げられていない。なお、20年度改訂版では「ハリー・ポッター」はO. ヘンリーの“The Green Door”に、「寓話」は星新一の“Fast Food”に代えられた。無難で凡庸な一時しのぎと思われる。

(2) 2007年度に宇都宮大学共通教育のコミュニケーションIとIIBの受講生(1年生)と英語教育専攻学生を対象にして、「英語教科書についてのアンケート」を実施した。主な調査目的は次の3点である。

- [1] 中学・高校を通して記憶に残る英語教科書の内容は何か?
- [2] 印象に残る授業
- [3] 印象に残る教え方

回収数は計118名分、内訳は農学部学生78、工学部26、教育学部14。まず、その結果を紹介する。

・出身県： 栃木(42)、茨城(14)、埼玉(10)、福島、山形、静岡(各6)、宮城(5)、東京、群馬、新潟、神奈川(各3)、その他、北海道、鹿児島、鳥取、富山とほぼ全国から。

・男性数と女性数： 72人対46人

中学校で使⽤した英語教科書：

NEW HORIZON (38) NEW CROWN (27)
SUNSHINE (23) TOTAL ENGLISH (6)
PROGRESS (3) ONE WORLD (2)
NH と C の組み合わせ (6)、 NH と S (4)
C と S (6) その他は無回答

高校で使⽤した英語教科書：

CROWN (29) SUNSHINE (10)
FOREST (4) PROMINENCE (4)
EXCEED (2) UNICORN (2)
VOYAGER (1) PROVISION (1)
その他は(忘れた)等、無回答

〈Writing〉

FOREST (8) NEXT STAGE (7)
CROWN (1) VITAL (1)
TARGET (1) その他大半は無回答

〈Oral〉

FOREST (7) UNICORN (2)
その他、ENCOUNTER、ACCORD (各 1)
大半は無回答

〈Writing〉

NEXT STAGE (7) FOREST (7)
CROWN (3) その他、VITAL、TARGET (1)
大半は無回答

〈Reading〉

CROWN (12) FOREST (9)
PROVISION (6) UNICORN (5)
VOYAGER (5) その他、SUNSHINE(1)
大半は無回答

(その他使⽤したもの) 単語王、速単、1400 語、
英検対策、構文 700、英単語類出、サイド
リーダー、過去問題集等。

学⽣の出⾝県が多様なのは、農学部学⽣が多かったため、ほぼ全国各地から学⽣が集まっていることがわかる。中学の英語教科書に関しては、タイトルをよく覚えているが、意外にも高校の教科書についてはそうではない。高校では〈Writing〉など幾つもの教科書を使⽤するために記憶が曖昧になり、大半が無回答になったと思われる。また、NEW CROWN と CROWN を混同したりする例も見うけられた。なお、私⽴の中高一貫進学校出⾝のため、検定を通していない教科書を使⽤した学⽣もいた。

公表されている全国における各教科書採⽤率とアンケートの回答との間には大きな相違はなかった。SUNSHINE と NEW HORIZON のシェアは全国的に拮抗しているが、ここでは前者の割合がたまたま少なくなっている。公⽴高校の進学校ではやはり CROWN が使⽤されることが多く、回答はそれを反映している。だが、その他の〈Reading〉などの教科書は、例えば回答にあったように「難関大学の長⽂⼊試問題集をやった」「教科書と受験中⼼」のために十分に活⽤される機会も少なかったようだ。従って、今後高校英語が「コミュニケーション英語」(仮称)として統合されるのは、特に進学校における大学⼊試対策の重要性という現実を踏まえ、現状に即した⽅向を示していると言える。ただ、進学校では主に 3 年⽣を対象にして教科書よりもセンター試験や二次試験対策が優先されるとすれば、やはり「構文・・・」や「過去問」のような即戦⼒のある教材が、学校側にも受験⽣にも必需品であることに変わりはない。

次に回答を項⽬ごとに整理して報告する。

中学

[1] 記憶に残る英語教科書の内容は何か?

(できるだけ記載された表現で紹介してある)

- ・ ビートルズの歌(11) *その他、歌(計 14)
- ・ ET (8)
- ・ 葉っぱのフレディ (6)
- ・ ハンプティ・ダンプティ、スポーツもの、ゴミが降ってくる(=?穴) (各 4)
- ・ トカゲ、タイムマシン、キング牧師、原爆、地雷、ケニヤ、ハンデルの話、空腹のライオン、だまし絵 (各 2)
- ・ リンカーン、マザー・テレサ、沖縄の唄、マオリ、車椅子、広島折鶴、日系収容所、⼈形劇、星新一、カナダ国旗、ヨセミテ (各 1)

[2] 印象に残る授業

- ・ ビートルズの歌をたくさん歌った(⽣が歌った、最初は歌等、24)
- ・ ビンゴ等ゲーム (受験で困ったけど等、計 9)
- ・ 英会話(すべて英語、⽇本語話すと即退室等、5)
- ・ ALT の授業、ALT と⽣とのやり取り (4)
- ・ ET の映画を見た (映画等、3)
- ・ 音読、英語で紙芝居を作った、ディクテーション、漫画の英訳 (各 1)

[3] 印象に残る教え方

・ネームプレートをつけた ・先生がアニータという授業名を使った ・挙手発表でのポイント制、シールをもらえた ・英単語のビンゴゲーム ・発音が身に付くまで繰り返した ・シャドーイング
・多読 ・暗記させられた ・先生が演じながら内容説明 ・英語ばかりで意味がわからなかった・クラス分け ・会話のプリント その他 (各1)
(*チヂミを作った、先生がオカリナを吹いた)

以上のまとめからわかるように、中学校の英語授業の思い出としては、歌とゲームと英会話 (ALT) の印象が強く残っている。教師側も楽しい授業を目指して雰囲気作りから心がけているようである。どの教科書もイラストや写真を多用して視覚的効果を高める配慮がなされている。そこに CD を用いて聴覚的指導を行い、また、できるだけ英語を話させる工夫がなされていると推察される。映画、漫画、紙芝居とアクセントも付けられている。

最も知りたかった点は、教科書の中で記憶に残る話は何かということであるが、その記憶は英語としてではなく、日本語としてその領域の記憶装置に収納されているようである。当然といえば当然であるが、例えば、回答の際に英語での記入がなかったことが、英語の学習状況を端的に示している。6 名が即座に回答した「葉っぱのフレディ」についても、そのタイトル「The Fall of Freddie the Leaf」は記憶されているだろうか。これは NEW HORIZON 3 年の最後に出てくる話であり、確かに記憶に残りやすい。だが、物語として重要なのは「the fall」について考えることであり、読者に伝えたいことは、擬人化された「葉っぱ」の語りを通して土に返るという「葉っぱ」の死の示す自然の循環であり、その中の「命」の意味にあるだろう。これはアンケートの質問の仕方にも問題があり、さらに突っ込んだ記述を求めているもよかったかもしれない。歌やゲームで楽しい雰囲気作りをすることも重要であるが、例えば、この童話の作者がレオ・バスカーリアというイタリア系アメリカ人の教育者・作家・大学教授で、学習障害学級の元公立学校教師でもあり、特に教え子の自殺という事件をきっかけにして *Love* という著作を残している等、教える側の教員に付加的な知識があれば、何らかの一言が中学 3 年という多感な学習者の心に何か貴重なものを残しているかもしれない。

ただ、中学校の英語教育にはそうした余裕はないだろう。発音、アルファベット、スペリング、構文、異文化理解と教えることが、また、やってもらうことが多すぎる。それでも、「ET」にしろ、「マザーグース」にしろ、ソース・ドキュメントについて様々な知識があるに越したことはない。

高校

[1] 記憶に残る英語教科書の内容は何か?

・環境問題 (海洋汚染、温暖化、開発等含、計9)
・キング牧師 (アパルトヘイト、人種問題等含、6)
・動物もの (パンダ、カモノハシ等、6)
・歌詞 (スタンバイミー、ボブ・ディラン等、4)
・スーパーマンの役者の話 (3)
・地雷、アンネの日記、黒い雨、NGO、ピーターラビット、マザー・テレサ、モアイの遺跡 (各2)
・ガラパゴス島、国境なき医師団、アボリジニー、シェークスピア、カメラマン、インターネットの話、臓器移植、スターウォーズの映画、グラミン銀行、足の不自由な水泳選手、チャーリー・ブラウン、Free Willy の映画の章、ケネディ、ミステリー、デジャビュ、料理、諺、80 歳の生徒、その他 (各1)

[2] 印象に残る授業

・予習が大変だった (10)
・文法ばかり (5)
・ALT (3)
・速読、パラグラフ・ライティング、和訳中心、音読、オーラルとライティング、 (各2)
・外国の本を学期毎に 1 冊渡され全訳の宿題
・ジオスから教員が来た (各1)

[3] 印象に残る教え方

・地獄だった (嫌いになった等含3)
・毎週小テスト (3)
・ただ話してた、厳しかった、暗記、速すぎ(各2)
・5 秒以内に答えないととばされる ・答えるまで着席できない ・全部英語でペアワーク中心 ・能力別クラス ・lay と lie の違いを説明した ・歌を聴いて穴埋め ・アクセント その他 (各1)

全国で進学率が 50%を超えている状況下であり、大学受験のための指導に重点が置かれてきているせいであろうか。中学英語は楽しかったが、高校入学後は授業の進む速さについて行こうと苦しい状態になっていることがわかる。受験英語指導のために、

例えば、〈リーディング〉の授業時間で「過去問」指導や実践向け模擬試験が行われたりするとしても学生から不満が出ることもないだろう。高校受験や大学受験が英語教育のあり方を大きく左右していると言えるだろう。

(3) 今後の課題

記憶に残る内容は、多い順にポピュラー・ソング、自然と環境問題、人種問題、童話、戦争の問題、障害を乗り越える不屈の話、偉人伝、世界遺産であった。文学的と思われる内容に関しては、一般の教科書で取り上げられることが非常に少なく、〈リーディング〉の教科書ですら、選択教材として巻末に置かれていることが多い。例えば、ある〈リーディング〉ではヘミングウェイの『老人と海』を巻末に載せているが、原作の冒頭場面からの抜粋で内容的には「老人と少年」の会話が中心であり、肝心の「老人」の「海」での格闘や葛藤はない。おまけに新潮文庫の訳本からの抜粋も付いているが、訳者福田恒存の記載がない。文学作品を教科書の一部として取り上げることは、語彙や分量や内容など様々な問題があり、やはり容易なことではない。

しかし、環境問題、人種問題、童話、戦争の問題を扱う場合にまずその歴史的背景についての知識があり、関連するニュースや作品について詳しい情報を蓄えている方が理想的である。特に、教科書を使用する英語教育者を目指す者には、『黒い雨』の英訳版を読んだり、リンカーンの時代背景を調べたり、キング牧師の生涯を知ったり、「スタンバイミー」「E T」「スーパーマン」の映画や見たり、歌詞の意訳と直訳を確認したり、児童文学書の原作を探したりするようなことが必要だろう。実際に、英語教育専攻の少なからぬ学生が、授業で発表をし、レポートや卒論を書く際に中学や高校で興味を持った内容—「マザーグース」やキング牧師の公民権運動、ヘミングウェイの作品、「アンネの日記」などについて—の知識を基にして研究へと発展させる場合が多い。

教科書が改訂されても、今のところ前述した話のテーマに大きな変動があるとは思えない。文学的教材を英語教育の場に生かす現実的な第一歩として、教科書に取り上げられている文学的教材が十分に生かされるためにももう一度教科書に立ち戻ってみななければならないだろう。

アンケート実施の際に参考として「印象に残った大学の授業」についても記入してもらった。

- ・ e-learning 学習がよかった (7)
- ・ 高校より簡単、B先生の授業がよかった (各2)
- ・ 歌を歌ったのがよかった ・ 先生によってあまりに違う ・ S-V-O から確認できた等 (各1)

大学における共通英語教育にもいろいろな問題があり、現在も宇大においても共通教育英語の改革のために準備がなされている。